

新潟県

平成2年

公民館月報

12月

第454号

対談 公民館職員研修を終えて



浜谷 浩 「田植女」

1955年 写真

57.5×38.3cm

新潟県美術博物館所蔵

「泥沼に胸まで没して田植えをする女、そこには歴史の進行も、文化の蓄積もない。あるのは、過酷な労働に耐えて、田植えを続ける女の顔であった。」

富山県上市町白萩のアワラ（湧水のある田）の田植えを撮影した浜谷はそのときの衝撃をこのように語っている。

このアワラの田植えは「裏日本」シリーズとして発表され、大きな反響を呼んだ。

かつての日本の農業の原風景がよみがえってくるようなリアリティーに溢れた作品である。



第13回全国公民館研究集会

生涯学習社会に対応した

公民館活動のあり方を研修

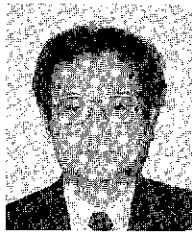
山口市市民会館を主会場に

去る十月十八日(休)十日の二日間にわたり、山口県山口市で第13回全国公民館研究集会が開催された。全国各地から二千人を超える公民館関係者が一堂に会し、生涯学習社会に対応した公民館活動のあり方を考える。[対座した]り方を考える

集会が開催された。全国各地から二千人を超える公民館関係者が一堂に会し、生涯学習社会に対応した公民館活動のあり方を考える。十二の分科会に分かれ、熱心な研究討議がなされた。本県から、地域づくりと公民館、部会の実践発表者として、岩船郡関川村公民館の伊藤泰雄氏が「ごろの実践」を発表し、参加者の関心を一身に集めていた。

維新の先覚者たちを輩出した土地がらにじみ出る山口市。静かに落ちついたたたずまいの中で、ひとときわ熱気に満ちた公民館研究集会であった。

この大会でうけた印象の第一は、二千人をこえる多数の参加者が十二の分科会で研究討



分科会印象記

地域づくり部会大盛況

関川村公民館係長 伊藤 泰雄

と共鳴を集めていた。印象の第二は、全体会研修行事の方式がユニークだったことである。

「リレー講演とフレッシュウインド」と銘うって、「人間吉田松陰を語る」(山口女子大学教授河村太市)、「大自然秋吉台を探る」(秋吉台科学博物館長庫本正)の二つの講演と、「フレッシュYAMAGUCHI」(山口県警察音楽隊)による「躍動の山口」を表現するよう趣向をこらしていた。

印象の第三は、分科会に目を移して、いま、「地域づくりと公民館」の分科会はどこでも大盛況である。先の関プロ公研集会

でも二五〇人の参加者による大分科会であったが、この山口大会でも五百人を超える大会随一の分科会であった。それだけ今日的な課題をもっているという点である。というのは、「地域づくり」の概念の中には、いわゆる「村おこし」や「快適な生活空間づくり」「生涯学習社会(まち)づくり」など多様なものがあるからである。

最後に、吉里邦夫全公連会長は、「今日は古い時代から新しい時代への過渡期にある。未来を予見する洞察力と脚下照顧する着実さで、公民館経営にあたらう。」と訴えていた。

ます。

私が参加したのは「地域づくりと公民館」という分科会で、「ふるさとせきかわ塾」について発表しました。この分科会は五・一〇名という全一二分科会中一番の参加者を集め、分科会というより相当大きな全体会という感じでした。やはり地域づくりは、全国どこでも関心のある重要テーマなのだ改めて痛感

しました。さすがに全国大会だけあって、鋭い質問や、はっとさせられる意見をたくさんいただき、私自身としても、とてもよい勉強をさせていただきました。

ここで学んだことを生かし、さらに広がり、深まり、継続性のある活動を展開し、村の活性化に尽力しようと決意を新たにしたいところです。

「西の京」とよばれる山口は古い歴史と美しい自然に育まれた落ち着いた町でした。一方、明治維新時に多くの人材を輩出したことでも分かるようにエネルギーを兼ね備えた町でもあります。

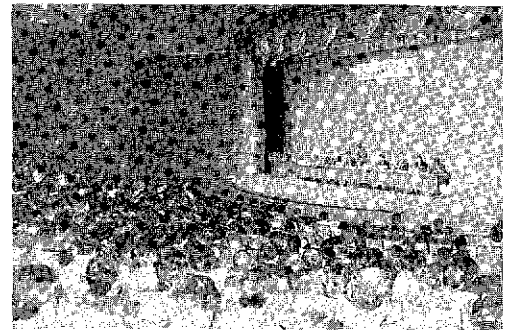
そんな山口にすっかり魅せられ、心地よい雰囲気の中で気持ち良く、発表者としての務めを果たすことができたように思い

分科会にひと工夫を

全国公民館研究集会の分科会でいつも思うことは、あまりに人数が多すぎてとても分科会とは言えないことである。

全国からの参加者が二千人を越えるので止むを得ないということか。それなら分科会の数を増やせばよきそうなのだが、それにはまた別な困難が待っている。その実情はよくわかる。そこで思い出すのは、昨年の

大宮大会のことである。「家庭教育分科会」の発表者と司会者を当県から送り込んだ。多数の参加者の全員から発言してもらうためにバズ方式を採用した。これが参加者から大好評だった。公民館関係者は会議の手法の多彩なのが特技である。その特技を肝心な時に活用できてはじめて生きた学習活動になるのであるまいか。(上村記)



辛口

学社連携は古くて新しい課題です。生涯学習時代を迎えて、学校の持つ教育機能の活用

があり、手法も異なるので、口で言う程簡単ではないと思います。現在、学校の体育施設を開放して社会体育に成果をあげている事実もあるわけですが

交流を深めることは、学校教育の充実・振興を図る基盤づくりであり、軽視できない課題ではないかと思えます。当市は、立地条件から、中心部に公民館本館を

が地域のセンターであり、学校と地域が一体になって活動する姿も珍らしくありません。初めはとまどいもありましたが、現実を理解して、協力をいただいています。

学社連携

河田 康夫

と開かれた学校経営の視点から、その重要性が改めて強調されています。然し、学社ともそれぞれの本務と領域

ら、工夫と努力によって、学校の施設・機器・資料そして人的資源が社会教育に活用されることを期待しているものです。一方、学校にとって、地域住民との

置き、旧村単位に分館を置いて、それぞれの地域の小学校を活動の拠点とし、分館主宰、主事補を管理職の先生方をお願いして活動を展開しています。学校

学校五日制も課題となり、その受け皿が問題となってきます。教育行政の課題にもなり、公民館活動の新しい分野の開拓にも連なることであり、学社連携のあり方を改めて考えています。

(栃尾市教育長)

鮭塩引き道

瑜 伽 徹 生

藪がバラつくところから村上は鮭一色になる。今日は、村上地区長寿大学が「越後村上三の丸流鮭塩引き道実習講座」を開いた。三の丸流では鮭の塩引きづくりを「鮭塩引き道」と称として、受講終了者には、初段・二段など位認定証を交付している。その認定証には、「風土にさからわず、鮭にたずねる心そなわりて、すなわち、技は道となるべし。」とあって、いかにも鮭にこだわる村上らしいところだ。

段」の部分には、女優真屋順子の名もあった。近く、元関取「蔵間」も入門する予定だと聞いた。「初めにナジ(ぬめり)を取ってからの中のアギを切り、それからカゲ(えら)を取ります。という講義とともに進められる師範の見事な包丁さばきに見ほれてから実習が始まった。

公民館歳時記

「塩引き道場」の壁面には、四段位取得者の名札が「ズラリと掲げられており、初段の認定証を手に入れることができた。

今朝は、NHKのラジオ放送番組「朝の随想」で、同期の飯沼宏君の「鮭なべ」も聞いた。村上には、今が鮭のシーズン真っ盛りである。(村上市社会教育指導員)



実習風景

安全をみんななでつなごうゆく年くる年

本会の主催事業「公民館職員研修」が去る十月二・三日に終了した。主として学級・講座における職員の果たすべき役割についての研修であった。

指導助言に当たった三氏に今回の研修の反省並びに、公民館職員の「役割論」について、ひいては、県公連の研修事業へのとり組みについてなどを語ってもらった。

一、研修の成果は

聞き手 この度の研修は、事例提供者を各部会に用意するなど昨年までとは違った方式を取り入れたのですが、その成果に

ついてなど、そこらへんから。田村 事例提供者の方々からは有益な発表をしていただきました。受講者も真剣に研修を受けていました。しかし、公民館が多様化しているせい、自分の「役割」についてあまり深く考えない、つまり、考えなくとも仕事はそこそこできるという甘さを感じました。

徳間 職員の経験年数が短くなってきており、一般行政部門からやってきて、すぐにまた、行政部門へ戻っていく。だから、公民館が教育施設であり教育機関だという認識を持たないうちに異動してしまう。そんな状態だから、一般行政の「役割」の認識で仕事をしているところに問題があるのでしょうか。

その意味で、このたびの研修で「役割論」を取り上げたのは適切であったと思う。しかし、受講者には必ずしもその意図が十分には汲み取られなかったような気がしたので残念でした。

という主題を、明確に意識していなかったようです。そうしたことへの解決策の一つとして、案内要項の書き方等を工夫出来ないものでしょうか。

最近の宣伝や広告のチラシなどをみると、訴えたいことが実に明快に特大の活字で表現されています。公民館の場合も、じっくり読まなくとも「学級・講座における職員の役割だから参加してみよう」という工夫はできないでしょうか。

田村 職員にとつては「職員の役割」が何時も問題になる研修でなければならぬ。苦なのですが、現場の職員サイドから提起されたもので無いことが問題であらうと思います。

もいろいろと有りました。長年の公民館職員の体験から出た貴重な発言だったと思います。

二、新鮮味が足りないという聞き手 次に、研修終了後の反省文の中に「新鮮味が無い」という手厳しい感想がありました。公民館の新しいあり方を求める声が強いです。

田村 今の職員は実に器用だと思います。じっくりと考える暇もないままに事業をこなしている。だから、研修の際にも、公民館事業の本質を問うのではなく、あたかも商品の見本市を見に行くような感じで参加している一面があるのではないのでしょうか。

とききました。田村 今は、誰でもスターになれるというような安易な風潮があるのではないのでしょうか。プロとアマの違いが分かりにくくなっています。だが、公民館職員の仕事はそれでは困るんです。「公民館とは何か」「学級・講座とは何か」等について、気づかせる必要があります。でも気づき始めた時には他の部課へ異動しているというのが実態ですね。

徳間 一般行政の部門では、新任職員は住民の面前に(あまりフットライトを浴びるような場)には出ないものですが、公民館の場合は、学級・講座でもイベントの場合でも常に住民を動かす立場にいるものだから、つい、自分が主役であるような錯覚に陥るきらいがあるんです。

聞き手 つまり「新鮮な」というのは、基礎的なものを把握した上で「何が必要か」を考えると「新しいもの」が見えてくるということですね。

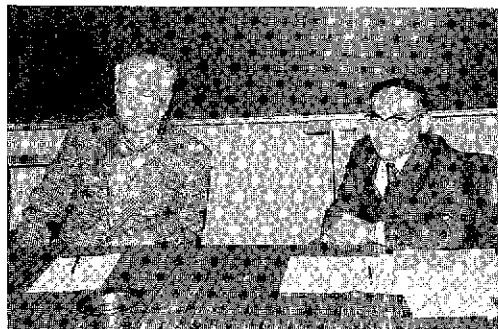
三、真の役割とは

聞き手 それでは、公民館職員「真の役割」というものをも少し具体的に分かるように説明してください。

研修を終えて

前十日中学校長
前十日町市公民館長
元柏崎市中央公民館事務長
県公民館連合会事務局長

直結した事例は、それを聞くだけでも参加の意義があり、その後の部会を方向づけました。参加者は、公民館職員の役割



聞き手 事務局への注文は他に

公民館職員

三 夫 夫
昭 達 助
原 村 間 村
桑 田 徳 上
(聞き手)

対談

よってこそ、親が変わっていくことを期待できるのだとすると、講師の話とともに、学級生同士本音を出し合って話し合うとか、次の学習日まで実践してみるとか、意見を書いてみるなどの工夫が必要になってきます。

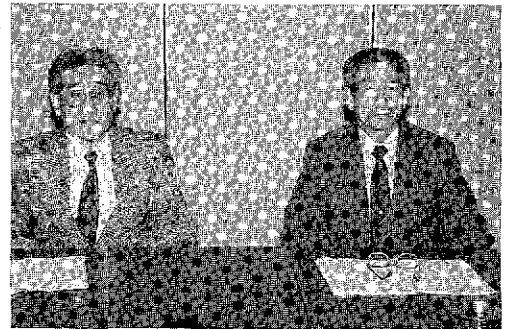
講演会を繰り返すだけの学習では、「学級」としての狙いが達せられないと思うのです。

学級・講座を、何のために開設するのかの考えを確立させることが、「学級・講座における職員の役割」を考える前提だと思います。

桑原 学級・講座を何のために開設するのかという主催者の認識いかんによって、その運営の仕方が変わり、職員の役割も違ってくるのだと思います。

例えば、家庭教育学級を開設する場合、「講師の話を何回か聞かせればよいのだ」と考えているとすると、日時とテーマと講師を決めて、後は講師にまかせればよいことになります。また当日は、講師を紹介し、質問の有無を問うのが職員の役割となります。

学級は、講師の話聞くだけではなく、学級生同士で高め合う学習が必要であり、それに



田村 「学習計画の立案」ということがよく言われますが、公民館職員がどういう役割を果たすべきかが分からないで、何もかも自分一人でプランづくりをしなければならぬように錯覚しないでほしいものです。

徳間 職員に、どんなことで忙しいのかを聞いてみると自分でもみんやらなければならぬのからだという。急にフットライトを当てられるものだから、ついスタンドブレイになってしまいうのでしよう。住民はそれに賛辞を贈るものだから職員の仕事はますますスタンドブレイになります。

忙しくなっていく。なぜ住民の力を借りないのかと疑いたくなる。だから、意地悪くいうと職

員は自分の自己満足のために学級・講座を開設していると酷評したくなります。

田村 講演会や行事をただ串刺しにしたようなものを学級・講座と呼んでいないだろうか。単に事業をこなすといった姿勢でなく、教育・学習活動と宣伝や普及活動との違いを考え、事業内容の充実——事業の質——に目を向けていきたいものです。

四、研修態勢は

聞き手 始めのところで事務局への注文がありました。それを含めて研修のあり方について、アドバイスをお願いします。

徳間 昭和三十八年ころからだったと記憶していますが、県で「公民館職員講習」を実施し

ていました。二週間にわたるもので、実に充実した内容でした。もう一度復活してもらいたいですね。それがだめなら、県公連がやるしかない。

プログラムの立案、学級運営に關することなど、際限がありません。

田村 とにかく研修内容はたくさんあります。県下の公民館の底上げを図るには、周到な準備による継続的な積み重ね方式による初任者研修が大事です。

田村 研修を自分たちの必要として取り上げるために、県公連の組織として「主事部会」を設置することを提言します。

県教委からは、中級者以上を対象とした専門的研修を実施してほしいものです。公民館の初任者には、公民館の実務に精通した人が適任でしょう。

「主事部会」の代表と、助言者が十分に意見を出し合って意思の疎通を図ること。企画ができたなら、当日の討議資料を事前に配布しておき、予習をして参加するようにする。こうした研修は県公連でなければやれない研修として定着すると思えます。

徳間 初任者研修でもう一つ大事なことは、専門性に関わるものの前に、人間性に関することです。例えば、地域の中には、優れた指導的人材がたくさんおられるのです。そうした人材を発掘し、謙虚に教えを請うといった姿勢についてです。

徳間 そのとおり。新任者には、最低限これだけは分かってほしいというもののエキスを研修することが必要です。

聞き手 そのエキスについて。徳間 まず、社会教育行政と一般行政との違い。公民館と他の社会教育施設との違いや、一般施設との違いを明らかにすること。事業面は無数に有りますが、学級・講座の部分を取り上げるだけでも、講師の選定と折衝、当日の対応や話し合いの技法といった基礎的なものから、学習

聞き手 始めのところで事務局への注文がありました。それを含めて研修のあり方について、アドバイスをお願いします。

徳間 昭和三十八年ころからだったと記憶していますが、県で「公民館職員講習」を実施し

いろいろなと有難うございました。

年 末 年 始 の 交 通 事 故 防 止 運 動 中

新発田市公民館

百館百様 婦人ボランティア講座

学ぶ作る継ぐ

失われゆく母の味の調査と伝承活動

はじめに

新発田市公民館で

は、昭和61年度から受け継がれてきた郷土料理を何とか保存、伝承しようと「婦人ボランティア講座」(受講者30人、30歳から60歳までの中年女性が参加)を開設。市内各地域に出向き、お年寄りから「聞き取り調査」を行い記録にまとめる学習活動を実施している。

一、調査活動

1 調査の意図

人と人とのつながりは薄らぎ、食生活はさまざまな問題に直面している事実を捉え、婦人の立場から問題解決のめちを求め、失われた、地域の食文化の伝承を推進しながら、地域のコミュニケーションを図りたいと考えた。

2 調査の方法

そこで、「しばた」の各地に四季折々に受け継がれてきた、日常食、行事食を明らかにするため、「聞き取り法」により旧村単位(九地域)に調査することにした。

調査に当たって

調査に当たって、地域の老人クラブの代表者を中心に、多くの方々に調査への理解と協力を願ったのはいうまでもない。

調査の時期

調査の時期は、農閑期の七月十月とし、一地区一回、対象者の居住地に近いところをと考え各地区の公共施設を利用した。

3 調査の実際

受講生は、実際の調査に先立ち、事前学習として、記憶に残っ

ている郷土料理、調査の方法と手順、食文化の概論、食文化に見る技と知恵、伝承上のテクニクなどについて学習し、調査活動に入った。

受講生を数人グループに分け、お年寄りから話しを聞き、調査表に書き留めた。

この四年間七地区からの収集は実に畑種類にも及んだ。飾り気のない山菜料理や、漬物の、下しかぶ等長い冬の食べものとして保存された食の姿に、風土の手ざわりと先人の知恵が秘められていた。

聞き取ったお年寄りの味加減や材料は、「これくらい」と手ぶりで説明を受けた。それを伝承するために一つ一つについて実習や試食を繰り返し現代人の嗜好に合うよう味付けをアレンジした。

多彩な伝承料理を追って、三ヶ年が過ぎ一応の句切りをつけたいと考え記録集を作ることにした。慣れない原稿書きから始



調査結果を検証実習

ある食生活を期待し、市民に希望頒布した。

3 社会教育の立場で

(1)郷土料理伝承上の文献として役立つと考え近隣市町村の公民館に贈呈した。

(2)郷土料理伝承のためのボランティア、派遣活動の手引きとして活用。

4 領布の反響

受講生や知人を通し、60部がたちまち完売。なつかしい役に立つ身近な手本と添え書きをして下さった市外の方々、更に20部の増刷をした。

一方豊栄市学校給食関係、市内小学校研究会家庭科部会に派遣伝承に努めた。

四、まとめ

1 反省評価
調査、編集等初めて経験する受講生が多く、技術的に苦勞が多かったが完成の喜びは大であった。

郷土料理のルーツを探し、若い世代へ伝承するための記録集の作成は充分な手ごたえがあった。

2 今後の課題

試行錯誤の中で、角度の違ったボランティアを定着させるために地道な積み重ねと、需要供給のバランスが残された課題である。

(社教指導員 雨宮文子)

サークル交流

歌えることの喜び

新潟西公民館歌のつどい

生をお願いすることができました。それに、西地区公民館では冷暖房のきく大広間を貸していただきました。

「思い出の歌、懐しい歌を歌ってみませんか。」という呼びかけにそれぞれの人が仲間を連れてつどい、平成元年四月一日に発会しました。三十歳代から八十年代、第三土曜日、午後一時半から三時半まで年の差も忘れて楽しく歌っています。

幸せなことに、指導者として、現在中学、高校の講師をしておられるお若く美しい竹田寛子先



「さあ、おへそのところから声を出しましょう。」と美しいお声とユーモアたっぷりの御指導に見られ、聞きはれして歌い出すと不思議に声が出てくるのです。その時は自分も一時の歌手になった気で歌っています。

年三回のお楽しみ会、文化祭出演と月五百円の会費で、少女時代にもどった気持ちで歌えることの喜びを味わっています。

(諸橋喜久子 記)

星に願いをかけて

三条天文同好会

三条天文同好会は、星好きが集まったサークルで現在30名の会員で活動しています。

毎月の例会のほか各自の天体望遠鏡を持ち寄り天体観測会を開いたり年1・2回は1泊で行っています。

観測の対象としては惑星、星雲、星団が主ですが5月にオリオン星雲、8月にはレベーター星と彗星を見る機会が多かった



ようです。

又、観測会では星を見るだけでなく写真撮影の講習会を行います。そして今年の9月に市立図書館で天体写真展を開くことができます。オリオン座などが代表的な星座からウサギ座やカラス座とあまり知られていない星座の写真やM13球状星団、バラ星雲などの写真を展示し、実際に撮影に使った天体望遠鏡、カメラも展示し、分かりやすいよう展示できたものと思われます。これからの季節、天候が悪く観測には不向きですが早くも来シーズンに向けて動きはじめています。

(三条市中央公民館

佐藤直人 記)

安塚町教育委員会 主事

小林 健吉氏 (26歳)

社会体育を一手に受け持っている「健ちゃん」は、社会教育の任事に就いて今年で五年目を迎えました。バスケットボールで鍛えた体で、日夜、多忙な事業をこなしています。



子どもたちからは「頼りになるお兄ちゃん」として、女性からは「かわいい健ちゃん」として、お年寄りからは「お孫」として、実に多くの年代の人たちに

素顔拝見

吉田町公民館料理教室講師

神保よう子さん (五十八歳)

料理教室開講以来の講師で、今年で連続三十年続いております。現在成人者六教室と子供教室一つを指導なさっている方。



「抱負を」
「現在は加工食品・インスタント食品に

終始笑顔絶やさない人柄なので、気楽にインディビュールできました。

「三十年間無欠席でこられた秘訣は?」

「私は、生活の基礎は健康なりと指導して来たのに自分自身が不健康であったら...と、常に明るくはりのある生活を心掛けて

いるせいでしょ。」と。

(吉田町公民館主任

前山道子 記)

慕われています。彼に逢っていただければ笑顔で対応する健ちゃんの人柄がわかっていただけるでしょう。

スポーツ等の指導のうまきに加え、まだ若いのに細かい心くぱりのできる彼は、町のスポーツ振興に不可欠な人材として、期待されています。

(安塚町公民館

小林美佐子 記)



活発な各地の研修事業

本欄では、各地区の研修事業の紹介を心がけているのですが、今年度はタイミングを失ってしまいました。そこで、郡市公連以上の規模の研修をまとめて紹介します。(但し、開催要項等連絡のあったもののみです。)

上越地区公民館職員等研修会

主催 上越地区公民館連絡協議会
趣旨 公民館活動の充実した推進を図るため、一堂に会し、問題点を持ち寄り、ともに研修討議を重ね、今後の社会教育活動の充実に資する。

期日 9月5日、6日

会場 中頸城郡大潟町 鶴の浜 ニューホテル

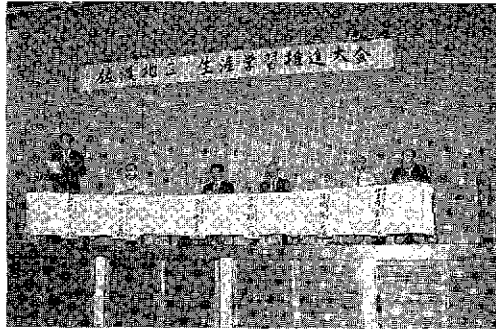
実践発表 関係六市町村の実践講演 「放送のうら話」

第39回中越地区公民館研究大会

主催 中越地区公民館連絡協議会
主題 「生涯学習社会 公民館の可能性と限界」

期日 7月30日(月)

会場 見附市中央公民館
分科会 組織運営・公民館の事



業・公運審制度の三分科会対談 テーマ「今、公民館を」

下越地区公民館関係役員研修会

主催 下越地区公民館連絡協議会
主題 「21世紀をのぞむ公民館を考える」

期日 9月6日、7日

会場 新潟市関屋地区公民館
分科会 管理運営・事業・コミュニティづくりと公民館

の三分科会各二分散会講演 「一九九〇年代新潟経済」

佐渡地区生涯学習推進大会

主催 佐渡地区公民館連絡協議会

主題 「佐渡の生涯学習の推進」

期日 7月3日

会場 畑野町農村環境改善センター
パネル討論 市長、教育長、社

教委員、公民館長、主事の各界代表五人による。

講演 「わたしの見た佐渡」

村上市岩船郡公民館職員研修会

主催 村上市岩船郡公民館連絡協議会

主題 「生涯学習時代における公民館のあり方をさぐる」

期日 6月26日

会場 岩船郡関川村公民館
問題提起 関係七市町村の事例

公民館運営審議会委員研修会

主催 二市北蒲原郡公民館連合会
主題 公民館運営審議会の役割

期日 7月30日

会場 新発田市カルチャーセンター
講義 「公民館事業の活性化」

村上市岩船郡生涯学習振興大会

主催 村上市岩船郡公民館連絡協議会、同教育委員会連絡協議会

主題 生涯学習振興のための体制整備のあり方

期日 11月21日

会場 岩船郡荒川町公民館
シンポジウム 三市町村の関

係者による実情交換 講演 「生涯学習社会」

公民館運営研究会

主催 南蒲原郡公民館連絡協議会
主題 「特色ある公民館活動を日指して」

期日 12月5日

会場 南蒲原郡田上町公民館
実践発表 二町村の実践講演 「特色ある公民館」

二恵贈お礼

実践記録集・文芸誌・広報紙等をも恵贈賜りありがとうございます。十一月末日現在



のもの)

○ながおか女性セミナー

学習記録

○親も育つ子育てセミナー

以上長岡市中央公民館

○文芸まつり第10号

見附市文芸協会

○文芸にいがた第9号

新潟市中央公民館

○文芸さんぽく第6号

山北町教育委員会

○文芸むらかみ第11号

村上市教育委員会

公民館かながわ (No.28) 広報つばめ (No.424) 市報むらかみ

(No.510) 社会教育だより聖籠の杜から (81号) 広報いわむろ

(No.343) 広報よしだ (No.649) 広報村松 (No.212) ぶんすい (No.461)

小須戸公民館報 (43号) 広報とすど (No.212) 広報かめた (No.463)

出雲崎町公民館だより (No.161) 町民スポーツ出雲崎 広報ひろ

かみ (No.316) 新生 (506号) 館報ほりのうち (No.343) 広報ゆのた

に (252号) 広報やまと (301号) ゆきぐに (313号) しおざわ (308

号) 広報かわにし (No.387) 広報つなん (No.353) 公民館報さんぽく (356号) 広報せきかわ (No.355)

ワイワイカワクラブ倶楽部 (12月号)

あとがき

◆師走もあと教日を残すのみ。住い年をお迎えください。(上)

発行所 新潟県公民館連合会
【新潟市川端町2-9・県林業会館内】
【電話・新潟 (025) 224-6073】
発行人 会長 木下清一
編集人 事務局長 上村拾二郎
【定価1部 120円 年共 1,440円】